

(参考)ICT国際連携推進研究開発プログラム

- (1) 新世代の通信技術の開発・普及が目標
- (2) 日本政府と外国政府の共同研究開発プログラムを実施し、国際標準化の獲得を目指す
- (3) 日本の技術が国際標準を獲得し、世界へ展開することで、情報通信分野における更なるイノベーション創出や国際競争力強化を実現



④各研究開発法人の戦略的な目標と目標達成のための重点的取組等

独立行政法人 情報通信研究機構における重点的取組等

基本的考え方

NICTは、日本再生戦略や第4期科学技術基本計画などの国の政策のもとで、国民生活とあらゆる産業活動を支えるICT(情報通信技術)の研究開発を総合的に推進。

平成25年度概算要求の概要

要求額287億円(平成24年度予算額297億円)

NICTにおける戦略的な目標と目標達成のための重点的取組

1. NICTは、IT戦略本部の「新たな情報通信技術戦略」(平成22年5月)や総合科学技術会議の「『科学技術に関する基本政策について』に対する答申」(平成22年12月)を踏まえて策定された第3期中期目標(平成23~27年度)に基づき、「グリーン」、「ライフ」及び「未来革新技術」の3分野に重点化して研究開発を推進。
2. 当該中期目標に基づき、NICTは第3期中期計画期間中(同)において、以下の4領域の研究開発を推進(次ページ参照)。また、第4期科学技術基本計画を踏まえ、震災からの復興、再生の実現にも貢献すべく、同中期計画を変更して新たな研究開発を実施。更に、研究開発の推進にあたり、有識者による外部評価を活用し効率的・効果的に実施。
 - ・ ネットワーク基盤技術
 - ・ ユニバーサルコミュニケーション基盤技術
 - ・ 電磁波センシング基盤技術
 - ・ 未来ICT基盤技術
3. 研究開発成果については、総務省独立行政法人評価委員会から良好な評価を得た。NICTでは、今後もさらに高度な成果を獲得すべく研究開発を強力に推進。

【良好な評価を得た研究開発成果例】

- ・ 「ネットワーク基盤技術」：マルチコアファイバーを用いて、伝送速度の世界最高記録を每秒112テラビットから、305テラビットに向上。
- ・ 「電磁波センシング基盤技術」：航空機搭載高分解能合成開口レーダにかかる観測データの分析時間を15分程度から1分程度に大幅短縮。